



セントロアメリカは
音楽の宝宝箱

ワールドミュージック・セレクション / 中米の音楽

MIN-ON

セントロアメリカの太陽

グアテマラ & パナマ

出演 / アルフォンソ・パウティスタ・マリンバ・アンサンブル (グアテマラ) サン・プラス (パナマ)

公演日程 (2008年)

9月10日(水) 6:30 p.m. 寝屋川市民会館 大ホール
 9月12日(金) 2:00 p.m. やまと郡山城ホール 大ホール
 9月13日(土) 6:30 p.m. 枚方市民会館 大ホール

入場料金: 4,500円 [全席指定] (税込)

お問い合わせ: MIN-ON 関西 06-6762-6130

チケットのお求めは

電子チケットぴあ 0570-02-9999 [Pコード: 290-466] (ファミリーマート各店、サークルK・サンクス各店)

ローソンチケット 0570-08-4005 [Lコード: 53368 (9/10公演)・53380 (9/12公演)・53383 (9/13公演)]

イープラス <http://eplus.jp/>

[9/12公演] やまと郡山城ホール 0743-54-8000

[9/13公演] 枚方市民会館PG 072-843-1122 / マイライフ新聞社 072-859-3340

※当公演は、小学生未満のお子様のご入場をお断りいたします。

主催: MIN-ON、やまと郡山城ホール (9/12公演)、(財)枚方市文化国際財団 (9/13公演) 後援: グアテマラ共和国大使館、パナマ共和国大使館 <http://www.min-on.or.jp/>



セントロアメリカの太陽

グアテマラ & パナマ

**セントロアメリカの人気アーティストが登場！
素朴にして繊細、心和ませるサウンド——。
躍動感溢れる、斬新な演奏にどうぞご期待ください！**

“中米”ときいたとき、みなさんは、どんな音楽を思い浮かべるでしょうか？

メキシコのランチェーラやマリアッチ、あるいはトリオものなんかだったら、聞いたことあるんだけどな・・・という方が多いのではないのでしょうか？

今回「ワールドミュージック・セレクション / 中米の音楽」で来日するのは、コスタリカ、ホンジュラス、グアテマラ、そしてパナマからのアーティスト。ふだん、日本ではなかなか接することのできない国の音楽家たちです。日本ではあまり知られていないとはいえ、実力は折り紙つき。どれも、ユニークで、高い音楽性を持ったグループばかりです。



アルフォンソ・パウティスタ・マリンバ・アンサンブル
(グアテマラ)

でもツアーを行っているそうです。このアンサンブルのリーダーがアルフォンソ・パウティスタ(53年生まれ)。彼こそまさにそのマリンバ普及運動のリーダー的存在の演奏家／プロデューサー／作曲家であり、マリンバの歴史研究を発表する傍ら、全国の公立学校でマリンバを必修科目にする運動を起こして大きな成果を上げています。ちなみに国営放送では毎日3時間ほどマリンバの番組が放送され、国立劇場横にはマリンバ文化のための建物が建設中。現在の文化・スポーツ大臣もマリンバ奏者ということです。

そんなマリンバ大国の精鋭中の精鋭によって構成された、グアテマラ最高のマリンバ・アンサンブル。素朴にして繊細、心和ませるあたたかいサウンド、洗練された躍動感あふれる演奏を聞かせてくれることでしょう。

一方、パナマのサン・ブラスは、国際的に活躍するパナマの音楽家たち7名が集まり、2007年1月パナマ・シティで新たに結成されたグループです。

リーダーのマルコ・リナレスは、パナマが生んだ世界的サルサ・シンガーであり現在は観光大臣をつとめるルベン・ブラデスのギタリストとして活躍した人。また、女性リード・シンガーのルス・アンヘラ・ヒメネスは、ゲロリア・エステファンアルバムにも参加、すでに7枚の録音を発表している実力派シンガーで、カリブの民俗楽器ティブレ(小型12弦ギター)の名手としても知られます。また、特筆されるべきはアコーディオンのオルメリス・ヒメネス。パナマの伝統音楽の60%~70%に必ず入るといわれるアコーディオンですが、ほとんどが耳で覚えた自己流が多い中で、彼はその演奏法やスタイルを体系的にまとめて、第一人者といわれるようになっています。

このアコーディオンやパーカッションを前面に押し出したサン・ブラスは、パナマの伝統音楽はもとよりラテン・アメリカに伝わる独自の音楽を現代的なアレンジとスタイルで表現。その斬新なサウンドが、いま大きな注目を集めているわけです。

さて、「セントロ・アメリカの太陽」に登場するのは、グアテマラのアLFONSO・PAUTISTA・MARIMBA・ANSAMBLと、そして、パナマのサン・ブラスという2組です。

長らく内戦が続いていたグアテマラでは、96年、政府とゲリラ間で和平合意が成立。その後の民主化と並行して先住民たちの文化復権が進んでおり、中でも「グアテマラはマリンバの大地」として、マリンバ普及がその文化運動の中心に位置しています。

マリンバというのは木琴の一種で、ルーツはアフリカとも、もともと中米にあったともいわれますが、いずれにしても先住民を中心として発展し、19世紀後半のグアテマラで現在のよう形が完成したとされています。

今年結成25周年を迎えた国立マリンバ・アンサンブルは、調査・研究とともに年間100回以上のコンサートをこなし、中南米各地はもちろんヨーロッパ



サン・ブラス (パナマ)